

平成29年度 第2回甲斐市中小企業・小規模企業振興会議 会議録

1 日 時 平成30年2月14日《水》 午後1時30分～

2 場 所 甲斐市役所本館3階 大会議室

3 出 席 者

委員 藤田泰一、中村己喜雄、清水保、功刀千斗夫、立澤眞一、三村一郎、水上信哉、丹澤健、新海徹、鈴木智行、清水喜善、田中陽子(代理:堀口)、生山勝、興石春樹

4 欠 席 者 松本栄一

5 出 席 職 員 商工観光課長 山田洋、商工労働係長 萩原和美、
商工労働係 興石敏男

6 会 議 内 容

1 開 会:司会者《事務局》の進行により開会

2 委員長あいさつ

3 議事

(1)甲斐市の現状について

《事務局》

山梨県及び甲斐市の現状について資料をもとに説明

《委員長》

みなさんから資料について何か聞きたいこと、確認したいことがあったら意見をいかがでしょうか。

《委員》

商工会の方から提案したい。昨年、商工会でアンケートをとりました。伴走型の支援事業として中小企業・小規模企業に対して実施した景況調査の結果を説明したい。

《委員長》

委員以外からの発言については問題はありませんか。

《事務局》

会議規則上第6条第3項の規定に基づきまして、委員長が必要があると認めた時は、振興会議に委員以外の出席を認め説明又は意見を聞くことが出来るという規定になっているので委員長の方でご判断いただいて結構だと思います。

《委員長》

みなさんの方で問題なければ、お願いします。

《商工会》

商工会の方で実施しました小規模事業者を対象にした景況調査の報告概要がまとまりましたので、会議の参考になればと思ひまして報告させていただきます。調査の対象期間は昨年の10月から12月までの3か月間です。調査対象者は管内の小規模事業者50者でございます。内訳としては、製造業10者建築10者小売業10者サービス業で20者計50者でございます。100%の回収で、アンケート調査票を各事業者に配布し回収しました。

製造業につきましては、景況DIは全国平均と比べてかなり良いという状況となっております。前年同期に比べて加工《売上》額が増加している事業者が多いというような結果となつ

ております。経営上の問題点としては6割の事業者が生産設備の不足・老朽化が問題となっているというふうな結果がでております。グラフと表がありますのでご覧いただきながらみていただきたいと思います。

2番目に建設業、景況感としましては全国平均として若干悪いというような状況でございます。売上に関してはほぼ横ばいというような事業者が多かったです。経営上の問題といたしましては、44.4%の事業者が民間需要の停滞と回答しました。また、原材料の上昇や人件費・材料費のコスト増と課題が多いというような状況でございました。

次に小売業につきましては、全国値と比べると若干悪いというふうな数値でございました。また前年同期比で売上高、採算性については横ばいというような状況でございます。経営上の問題点ということでは、大型店・中型店の進出による競争の激化ですとか、購買力の他地域への流出などが課題として挙げられております。イオンのオープンとかそういったものが影響しているのかなというふうな推察されます。

それから、サービス業ですが全国平均と比べて若干良いというような状況でございますが、売上・採算性については減少している事業者が多かったです。問題点は、原材料の上昇という回答が6割というような形でございました。

それから、設備投資に関してなんですが、昨年度の設備投資実績を見ると製造業で若干、半分ぐらい実施したというふうな回答が出ています。来期の設備投資の計画につきましては、製造業、建設業、サービス業で計画をしているという方が少し伸びているという結果になっております。

今たいへん話題になっております、従業員の過不足についてということでございますが、人員が過剰というところはございません。建設業で不足感が高いというふうな数字になっております。人員不足が企業経営に与える影響の有無については、影響が出ている、懸念されるというふうな回答が多かったと思われます。具体的にはどんな影響がでているかということになりますと、納期の遅れやサービスの低下というような問題、受注に対して対応ができない機会損失による売上の減少、残業と時間外賃金のコスト増による利益の減少というふうなことがあげられております。最後の総括についてはまたご覧いただければと思います。いずれにしても、利益創出のためには売上増加だけではなくコストの削減とか検討の必要があります。そういった中で非常に厳しい経営環境におかれているというのが全体の印象でございます。以上簡単ではございますが景況調査の報告とさせていただきます。

《委員長》

先程の経済センサス、商工会からのDIについて何か確認したいことがございましたら手を挙げていただければと思いますが、いかがでしょうか。

《委員》

市の歳入、次回までに事業所税について調べてほしい。

《事務局》

事業所でいいますと、法人と個人の方がいて、個人の場合は市民税という扱いになるのでサラリーマンの方と同じ枠の中で税金を納めていただくということになりますので税収的に増えていてもあくまで個人の収入が増えているか人数が増えているかということになります。法人の方は、法人税そのままですので、そのような結果の報告になるかと思えます。

《委員》

7 ページですが、甲斐市のなかで製造業の事業所数がマイナス 19、従業者数がマイナス 1,074、この4年間で何かあったのでしょうか。

それから、10 ページで甲斐市の制度があるが、どのくらいの利用があるのか。

《事務局》

正確なことはわかりかねる部分がありますが、ご存じのとおりルネサスさんが撤退したのが平成 26 年だったと思うんですが、その下請というかそういう方の製造業の影響ではないかと推測できるかと思います。2 点目の利用者の関係ですが、10 ページの「小規模企業者経営改善対策資金利子補給制度」につきまして 28 年度決算で 43 件約 170 万円ほどの実績になります。

創業融資に係る利子補給制度につきましては、27 年度制定ですのでなかなかないんですけども、30 年度からは実績があがってくるかと思っています。

小規模企業者小口資金の関係は、なかなか利率が高いという部分もありまして、平成 19 年に借り入れた方がいらっしゃいましたがそれ以降はない状況です。

《委員長》

私のお聞きした印象としては、経済センサスの調査からみると医療福祉の増加事業所数が最も多かった 31 事業所、従業者数 406 人という数字になってますが、ここは若い人が多いとはいえ、高齢化社会の影響で、介護関係の施設とかが増えており、これは全県的にそうなんですけど、甲斐市もそのような形で増えているのだろうというふうに感じています。

あと、建設業が 22 件減少という形で多い数字、製造業の 19 事業所を上回って、これは結構建設業関係多いのかなと聞いておりましたが、この商工会の調査報告書、建設業の DI 全国平均下回っているし、良いから悪いを引いたものが DI ですが、最も悪いのはサービス業、建設業も高いということですね。

《委員》

全体的にインフラ工事がだいぶ減ってきてまして、公共的な工事は年々減ってきている。多少なりとも中部横断道、リニアの関係ぐらいで、県・市町村関係は激減。住宅関係は大手のハウスメーカーが営業力があり、大工さんとか、リフォームをする人たちが、高齢化したり、そういう中で仕事が無いから縮小というような傾向であります。

(2) 意見交換会

《委員長》

それでは、第 2 の意見交換会の方に入りたいと思います。何かいいアイデアでもいいですし、実際自分たちがこういうことをやったらいいのかなということでも構いません。せっかくご出席いただいていますので、全員の意見をお聞きできればと思っております。

《委員》

去年、甲斐市においては中小企業小規模企業の経営者というのは比較的若い人がなりつつあるのかなと思います。それにはやっぱり創業支援とか商売をやりたいよという若い人が金融機関の中にも相談がもちかけられていると思います。他の商工会から見ても創業支援は多いんじゃないかなと思っています。事業者、商店主が高齢化した中で後継ぎがいらないから仕事辞めようとか誰かいないだろうとかいろいろな声を聴きます。事業承継という問題が今から大きい問題になってくると思います。商工会においては、後継ぎさん経営者がいらない

場合は、新しくやってみたいという人たちに、そういういろいろ汗をかいたり苦勞した会社商店を継いでもらう。そういう人たちにもまた手助けをして、うまく事業承継を、ただ家族の息子さん娘さんに継ぐのではなくて、そういう形で事業承継を可能な限りやってみたいなと思っております。

いずれにしても、甲斐市は大型店が非常に多くなりまして、また大型店が2つ位でるようですけれども、消費者にとっては非常に環境がよくて、いいものを安く買える環境がいいところでございますけれども小売業にとっては大変でございます。我々商工会としては、作ったものを自分が誇りを持って得意な分野を消費者に買ってもらう、味わってもらう、こういうことが大事ではないかと思えます。

《委員長》

経営者が高齢化して後継者がいないという日本あげての大きな転機ということで確か数百万社の事業者が数年後では無くなるというような数値を聞いております。一方でまさに企業も高齢化しているということです。創業を仰ぐということで、新しく生まれる企業が何とかやっつけられないと、まさに企業が少子高齢化社会になっているという状態の中で、新しいビジネスが生まれやすい状況に比較的ある地域であるという、お話しがありましたかどうか。

《委員》

企業者については、甲斐市には非常にいいコンテンツがたくさんある。それぞれのコンテンツが各事業者さんの努力によって成り立っているような気がします。ここで何か会員の中でうまく行くこととか、できたらいいのかなということで、例えばワインビーフとか、商工会さんの桑の葉とか、やはたいもとか、ワイナリーとか結構人を呼べるコンテンツがたくさんあると思えます。そのような中で、ユーチューブで甲斐市のページを見てみましたらこのなかで50本くらい動画があるんですけども、殆どの動画が10数回から数百件程度の閲覧しかありませんでした。ただ甲斐市のホームページに地元出身のアイドルの荻野さんの動画を使ったものは1万2千回、1万何千回、2万回というような閲覧数がありました。今までにすると、とてつもないということで、うまくこういったものをせっかく甲斐市でやっているの、コラボレーションできなかなと。ゆるキャラグランプリで、ニーラには負けましたけども二桁の順位になったとか、そういったものとか、やはたいぬの今年の年賀状は関東で1番になったとか、いろんなすごいいコンテンツがたくさんあると思うんです。で、こういったコンテンツをうまくコラボレーションできたらいいなと思っております。そんななかテレビで見た方もいらっしゃると思いますが、岐阜県白川村では、役場で一般の個人が建築をする住宅を競争入札の受付をすると、白川村の役場内を使ってやることによって受注が倍増していくと、それに村内の業者が競争入札の登録業者として登録をすると、各事業者が、たとえば1年に5件作っていたものが10件作るようになったとか、本当に倍増していると。

他にも山形県の天童市はふるさと納税をしたお客様に天童市の有名な将棋の駒のストラップをおまけとして付け、駒に名前を彫ってあげたりすると。名字だけを彫ってもらった人は、2回目のふるさと納税では、こんどは名前を彫るとか、それによってふるさと納税が2013年11万5千円だったのが、2016年には33億5,800万というような事例もあるようです。

熱海市はテレビとか映画のロケを誘致していると。これも役場の観光課みたいところで、市内の協力者を募った形でやったそうです。それによって観光客が2011年から55万人増えて約20%増えて301万人に増えたそうです。やり方によって、せっかくあるコンテンツをうまく

利用することによって、人を呼んで、人が来るということは、周辺にお金落ちて、仕事が増えてということで、まさしくこの会議が目指すようなことかなと思います。別の事例で、花畑牧場の生キャラメル、一時一世を風靡しましたが、今殆ど名前を聞くことがなく、北海道物産展などに行くと、たまに売っているかなという程度ですが、実はあのブームの時にも、今のあの企業は何十倍も大きくなって、というのは直近だとローソンと契約して、チーズを使ったスイーツを作っているとかいう形で、やはりやり方で一回名前を呼んだことで、地元の雇用を確保したりとかで、コンテンツを極めたと思うんですが、そういったものがあるというのをご紹介したかったですし、検討すべきことかなと思いました。

もう一つ甲斐市で昨年西八幡に開業したこのはな産婦人科ですが、甲斐市で確か5千万近く補助金を付けて、ようは大きい病院しか産婦人科がなかった状態を県内唯一解消した市が甲斐市なんですけど、ただあまり市民の方そのへんご存じないかと思うので、医療とか福祉の部分で非常に重要な部分とかそういったピーアール考えなければと。

もう一つが甲斐スポーツ振興会という組織がありまして山梨県出身の元楽天イーグルスの山村さんが立ち上げた組織になります。そちらのほうは西八幡のメディカルタウンの先生だとか山梨医大の先生だとか、山梨学院大のスポーツ科学部の方とか、県内出身のアスリートの方たちと連携をした事業を始められています。本部は西八幡に置かれているので、当然甲斐市内の事業所で、これからのアスリートだとか、未来を担った子供たちのために作ったような組織なので、また医療、福祉と連携しますし、それによっていろいろなイベントで人を呼びますし、その周辺の商店を使うといったことが発生すると思うので、やはりこれもコンテンツの一つと考えてますけども、そういった事業をただそのままやったなというだけでなく、各事業努力で大きくしたいなと思ってうまく補助したりとかというようなやり方ができないかなと思います。

《委員長》

甲斐市の金融機関から見たら、先ほどのお話から創業が若い人が多いんじゃないかということですが、そういう傾向みたいなものが見られるんでしょうか。

《委員》

景気が一頃より良くなっているんだろうと思いますが、創業したいという方、商工会と一緒に相談にのったりとか、情報があれば提供してやっていければなと思っています。一方で、年配の方、ジョイントみたいなところ切り替えとか商工会とかで情報交換していただいてできるんじゃないかなというふうに思ってます。先ほどの商工会の資料で設備投資というところで、景気がいい割にはもっと設備投資も考えてもいいのではないかなと思いますが、一つにはこの景気がどこまで続くかわからないというような将来に対する不安もあるかも知れませんが、一つには設備投資しても後を継ぐ人がいないなどありますが、いい運営ができれば、事業継続できればなと思います。

《委員長》

それでは事業者さんの方から何かご意見等、どうでしょうか。

《委員》

先程の別の委員さんのほうから言われた、後継者で、2年くらい前に商工会でアンケートを取って3割くらい後継者がいないから廃業したいと、甲斐市でもそこがネックで、後継者がいない、廃業をしなければならぬ、そういう業者をなんとか手助けをする方法を考えないと、こ

のまま何もしなければ自然消滅で3割は無くなってしまうと、新規の業者が3割増えるかという
と、なかなかそこまで今の景気では出ないだろうし、また、消費税も上がると、こうなるとな
お景気もそんなに良くなるしない。現状でも景気がいいのは東京周辺でオリンピックの前景
気、そのあおりで人材不足、人件費の増加とこういう問題が出ているし、これからもっと出
るのではないかと、そういうことを皆で知恵を出しながら1軒でも後継者がいて良かったな
と、廃業しなくて技術を継承できて良かったなと、こういうことができればいいなと思っ
ています。

《委員長》

甲斐市の経済センサスを見ると卸小売業は結構マイナスが全体的には多いですね。甲斐
市を見たら増えているということで、そういう点では先ほど3割位後継者がいないというな
かでもなかなか頑張っているなど気はしていますが、多分商業販売力でみると甲府、昭
和、甲斐、中央データ見たことありますけども甲斐は商業販売力落ちていると思うん
です。その分昭和、まあイオンですかね、そちらの方に食われてしまっているような
気がしますが、その点からしても中小・小規模のまさに今回我々がテーマにしてい
るところの事業者は実際はますます厳しい状況にあるということですね。

《委員》

双葉地区でも、フランチャイズのコンビニ店がほとんどで既存の小売店というのは今
1件しかないです。先日、甲斐市の商工会の研修会で清水市の商工会をお訪ねしまし
た。街中で、昆布とか鰹節とかお味噌を売っているお店があるんですけどもそこで出汁
の取り方の講習会まあゼミみたいなものですけども、昆布の種類からだしをとる昆布
とか、食べる昆布であるとか、結構細かく丁寧に教えられていたんですけども、そ
ういうことをやりながらゼミを4、5人集めてやっている、清水駅の前の商店街で
主催されている、それで4、5人集めて講習会をやるとまたリピーターとしてお客
さんが循環しているみたいな話をされています。またチラシを見ると歯医者さんが
インプラントってどういうものかみたいなゼミがあったり、そういう各商の人たち
が自分がやっている商売の中でみなさんが身近に感じられるような接点をみなさん
にもってもらおうことをお聞きしまして、非常に勉強になりましたし、甲斐市とし
ても商工会としてもそういう取り組みも必要なのかなと、そういうことでまた既
存店が今後継続していければいいのかなと感じて帰ってきました。そういうことが
今からの甲斐市の商工会とか商店街にとって必要だなと思います。

《委員長》

街ゼミについては、ちょうど私も先週中小企業基盤整備機構という国の外郭団
体で中小企業関係のいろいろやっているところがあるんですけども、そこに用事があ
ってちょうど行ったらその職員さんが中心となっている人なんですけども、同じ
ような話をしていました。街ゼミで来て話を聞いてそれからはリピーターにな
るといようなお話でした。甲府の商工会議所については去年から始めているん
です。私の知り合いの店主もやっているんですけども、最初だから人が集まらな
いからうちの奥さんに来てくれなんてことでいった記憶があるんですけども、
今年はまだ2年目でやっているようですけれども、やり方によって非常に成功す
る、リピーターを呼ぶところというところがあると思いますのでその辺も研究の
材料の1つになると思います。

《委員長》

他には何かありますか。

《委員》

甲斐市の立地条件としては親会社、工業団地いくつかありますけど、甲斐市の市内に大きい面積でなくてミニ工業団地的な小さい300坪から500坪程度の土地が工業用としてどの程度あるのか、不動産屋とか金融機関とか情報はあっても一カ所にまとめてもらって、甲斐市の工業用地としての情報が一括化していただければ非常に分かりやすいなと思う点があります。工業部会でも工場が手狭になったので、他へ出たいんだけど甲斐市では無理かなというふうな話も聞いておりますし、数社が集まったミニ工業団地的なものになれば、会議室とか食堂とかを全部の会社で共同で使えるようなになればと思っています。そういった情報の土地的な面で集約していただければなと思います。

あと、労働力の点でこれは市でどうのこうのできる問題ではないと思いますが、パートさんの場合ですと配偶者控除受けたいために10月とか11月になると労働時間を減らさなければならぬと。また年金受給者になりますと満額年金もらえるような労働時間で午前中だけだとか、そういった制限を国の方で変えてもらえればなと思います。

《委員長》

ミニ工業団地ということですが、先程聞いたところによるとルネサステクノロジーさんの跡地ですか、あれは何坪ぐらいあるんですか。

ルネサスの持ち物だから勝手にはできませんが、例えば分割でうまくその辺を活用して、開発するようなことは難しいものなのでしょうか。

《事務局》

資料は持っていませんが、9ヘクタールあるかと思います。また、ルネサスさんの意向はたぶん居ぬきで売りたいって気持ちで、クリーン棟の建物が1棟だけ残っているんですけども、つぶして更地で売るっていうよりは、そこを居ぬきのまま売りたいっていう気持ちが強いんじゃないかなと思います。

《委員長》

確かに、結構工場もありますよね、甲斐市全体でみるとね。そういうところをうまくやってミニ工業団地みたいなことができる情報交換みたいなこともできるし、技術交換しながら進められるかなと思いますけど。

あと、パートのこれはもうなかなか解決しにくい問題ですかね、何かいい方法でもありませんでしょうか。

年金受給者だとやはり上限がありますね。ここで特別特区でも作ってどうにかできるのであればやぶさかでしょうけれども。

《委員》

原価が上がっているという事がネックになっていますし、二人でやっていますが高齢になり、使ってくれている人たちも昔からの人たちなので、無尽なんかも一人減り二人減り、新しい人迎えるという格好になるとなかなか難しい問題もあるかと思うんですね、このはな病院あの周辺結構住宅が多くあるんですね、そこは病院関係もあり学校関係もあり買い物も不便でないということで。また、日立の体育館の跡地のところが開発されて、大きな住宅街になりました。そのおかげで結構お客さんが若いお客さんもみえるようになってきました。

商工会の方から補助金を使わせていただいて、畳にテーブルとイスを変えさせていただいて、年配の方には好評で補助金を使わせていただいて良かったなと思っています。

後継者として妻の方の甥っ子に声をかけて話をしていますが、また商工会さんの方でもセミナーとか開いていただいて、話を聞いてもらったりしてもらえればと思います。

《委員長》

先程の補助金、小規模企業の持続化補助金のことですね。これは中小・小規模企業者のための補助金で、今年で3年か4年たつかと思うのですが、私も商工会関係の審査を一時関わらせていただきましたが、結構応募も多く、当初合格率が7・8割位あったんですが、最近厳しくなって3割位に落ちてきているというところはあるんですが、応募とか使いやすさという点では、評判がいいということを知っています。これを言うと難しいことになるかもしれませんが、個人的な傾向としては、例えば市の方で最高で75万の内50万、15万の内5万円くらい補助でもしていただければ、創業なり後継者なりそういうような、なんか作れると事業者にとっては朗報かなと思っていますが、これはこれからの難しい問題もあるかと思いますが。

事業者の立場からはどうでしょうか。

《委員》

私どもは甲斐市の地元でボーリング場とゲームセンターをさせていただいております、やはりボーリング場などでみなさんやられることもあると思うんですけれども若者のボーリング離れっていうのも進んでおりますそのへんの掘り起こしをするのもなかなか難しいというところでもあります。ボーリングもともとブームの時にやられていた方というのは今60代70代の方たちというふうになっていましてその方たちを対象にした事業もやっているところでございます。健康ボーリング教室っていうようなものやっております若い時にやられていた方にボーリングをやっていただいてそこで定着させてボーリングを楽しんでいただくっていう形でシニアの方たちにはそういった形で今やっているところでございます。先程、別の委員さんも言いましたけれども、商工会の持続化の補助金も昨年度出していただきましてシニアを対象とした事業の新聞の折り込み広告に挑戦させていただいてやっているところでございます。それで年間通して増えました。やはりジュニアとか若い世代の方たちがなかなか、というところで苦慮しているところでございます。

《委員長》

県内の状況はどうでしょうか。

《委員》

県内でもボーリング場の協会みたいなものがありまして県内でも4つか5つくらいですね。最近では全国的に見ても大きなところ老舗だったところも耐震だとかそういう施設の老朽化ということでやめていかれるところが多くなっています。

《委員長》

高齢者の健康なんかもいいと思うし、そういうことで使っていると思いますけどね。

事業所さんのご意見お聞きした中で、全く違う観点からでも構いませんが、どうでしょうか。

《委員》

お客さんのほう回ってみまして、一步踏み込んだ設備をしたいんだけども入っていけないと、景気は良くなっているんだけど先が分からないからというようなお客さんもいまして、今やらなきゃいつやるのというお客さんもいまして、そういう時にうまく補助金なんかも、補助金ありきもいけないんですけども、こういうものもありますよという動機づけができればいいのかなということもあります。市内でこういうものを求めていますよというものが発信できるところが、な

かなか無いのかなと思います。不動産とかになると不動産業者さんに尋ねればいいんですけども、皆さん見れる掲示できるものがあればなと思いました。

《委員長》

他の委員さんはどうですか。

《委員》

別の委員さんのお話にあったようにキラコンコンテンツというか甲斐市には、これといったものが、いろいろあるんですけども、すぐにうかぶものが無いのかなと。甲斐市にもいいものがあるんですが、甲斐市として何かこうひとつキラコンコンテンツ的なものを皆さんで釣り上げるというのが、一番発信力としてはいいのかなと。ユーチューブの話もありましたが色々なところから、思いがけないところで、そういうものが伸びていくというような傾向が、いままでの発想と違うところが出てますので、そういうところで作っていくというのが重要ななと思っています。

《委員長》

同じような意見になりますけれど例えば今一番必要な道具としてはインターネットを使ったいろいろなビジネス展開もあるでしょうし、当然PRもあるでしょうし、インターネットいろいろ幅広い利用価値あるものだというふうに思いますよね。そういう中で、例えばホームページは、20万から30万あれば十分作れると思います。その内補助して1/3とかを出して、残りを金融機関さんの方でバックアップして、尚且つ市内のシステムを作る業者さんを使えば、市内でうまく回る動きができるようになればなと思いました。

次に消費者の立場としてはどうでしょうか。

《委員》

甲斐市はとても住みよい街だと思うんですね、中小企業とは関係ないですけども、女性団体にはごみを削減しましょうとかエコのこととか、子供の貧困の問題とかを力を入れてやっているんですけども、若いお母様方が安心して働けるような場所作りとか、高齢者でもまだ働きたいという方いらっしゃると思うんです。年金だけでは足りないという方が、そういう方達が気軽に働きたいから商工会でもいつか相談してみようとか、そういうふなことができるというなと思いますけども。

《委員長》

確かに今の時代は、働かないとなかなか食べていけない状況ですから、そういう人達を地元でうまく、事業者側としては悩みがある。生活者側からするとそういう面もあるので、それがうまくマッチングできるような形ができればいい話だと思いますが。

他の委員さんはどうですか。

《委員》

子供たちの関係なんですけれども、職場体験学習っていうのがありまして甲斐市には小学校が11校中学校が5校あります。その児童生徒たちが職場体験学習ということで個人商店のお店に行ったりとかちょっと大きな企業に行ったりとかということの中でいわゆる体験学習をするという状況でございます。非常にですね、子どもたちの事前学習を含めどうしてそのお店があるんだろうとか、また企業ではどういうものを作ってどういうルートで販売しているんだろうということを勉強されています。生徒が中学生はちょっと大きいところに行ったりするんですけど、一生懸命勉強されておりましてまた受入れ側の方々も非常に好意をもって受け入れてもらってまして非常に子供たちの成長には役立っているというところがございます。

もう1点は、商工会さんが主催するちびっこ企業家ですかね、そちらの方でも甲斐市の多くの子供たちが参加を致しまして将来自分でも起業したいとか、会社の社長になりたいとかそういう夢をもってその塾に参加している子供たちもいらっしゃいます。そういう事の中で商工会の皆さま方の力を借りながら甲斐市の商店また企業の発展にそういう子供たちが将来夢をもって参加できるかなというように思っております。また一方消費の面で行きますと給食の関係がございまして甲斐市の小学校の1ヶ月の給食費が4,500円、中学校が1ヶ月5,000円ということのなかでこの4,500円5,000円は材料代だけであります。光熱水費とか人件費につきましては市の方の持ち出しになっていまして、あくまでも材料代というになっております。そのなかでなんとかやりくりいたしまして市内のお米、100%甲斐市産米を使っています。梨北米とか釜水米、2つの農協から仕入れておりまして100パーセント甲斐市産を使っていると。また赤坂トマト、ちょっと単価も上がったりするんですけれども地元で生産されたものという中で使っていると、ワインビーフとか黒富士の卵とか取り入れて子供たちに甲斐市の特産品はこういうものがあるんだよと教えながらまた献立も内容を保護者にも知らせるなかで作っているという状況でございます。給食を通じて甲斐市の野菜とか特産品を保護者の方々にPRしたり子供達にも味わっていただいているような現状です。なかなか野菜が上がっているとかですね、非常に給食も四苦八苦しながら行っている状況でございます。

《委員長》

まあこういう形で地元のものを使っただけだと生産者又関係者の方たちもやりがいもあると思うし、子供達も地元にも美味しくてこんないいものがあるんだということが分かっていたら、地元愛も出てくるでしょうし、実は県の方でも中小会議やっているんですが今年も前回出た時に人を雇用するっていうのは難しい、人手不足の話はでましたがね、もう1つは東京へ山梨から行って帰ってこない、そういう人をどうするかというテーマもあったんですけども私はたまたま10年ほど大学の教員をしていてゼミをもってました。全国から毎年学生が来るんですが、どこの県がUターンというか東京へ出てきて帰るのかなというのかなというのがあったんで、比較的多いのが新潟県の学生は帰るのが多かったですねえ。なぜかなというふうなことを私も考えまして、たまたま私の弟が新潟に転勤で行ってそこで結婚して家が建ったもんでその娘が二人、大学出た娘がいるんですが、新潟っていうのは地元愛を育むのかなあと、私の想像ですが、山梨でも小学校のちびっこ創業塾ですか、とか中学校とか、高校くらいになると文化的なビジネスプランというのが作れますので、自分でここでこういうビジネスやったら成功できるよっていうようなものを作ってみんなが応援してやったら少しでも山梨で起業したいって人が東京行っても戻ってくれるかなんていうようなことを思って私も発言した記憶があるんですけどもそういう点では学校教育をビジネス起業等の問題、後継者等の問題をかかわりが出てくるのかなと。

最後に、本振興会議の総元締めとなるわけですけども今までの話聞いた感想でも結構ですし、個人的な意見でも結構ですけどもどんなものでしょうか。

《委員》

ほんとに今日は現場の参考になる意見を聞かしていただきましてほんとに良かったなと思うんですけども、中小企業・小規模企業振興会議、まあこれから市の商工振興を進めていくうえで非常に大事な会議だなと痛感いたしました。行政だけではなかなか気が付かないこともたくさんございます。今日話を聞いた中でもですね、いろんなコラボを始めてですね、工

業用地の情報の提供等なんていうのは特に行政なんかではすぐ取り組むことが出来るのかななんて思うんですけども、コラボについては市でもいろんな意味で観光を含めたり特産品を含めてやってはいるんですよ。でも、なかなか甲斐市の大きな観光っていうものがないんでワイナリーがいくつかありますけれどもそのワイナリーを使ったワインツーリズムですか、バスで回ったりとかですね、あとちいさな旅なんていうことで地域の甲斐市の文化財なんかを巡っていただいて甲斐市の良さを発見してもらうなんてことでいろいろ取組みはしているんですけども、議会なんかでもよく言われるんですけども甲斐市に観光協会を作ったらどうだ、なんていう話もあるんですけどもなかなかやっぱり観光協会を立ち上げるとなると主体になる大きな企業が宿泊先等も絡めてそういう企業の方がいないということの中で今見合わせているような状況でございます。工業についても、山梨県全体では人口が減っているようなんですけれども甲斐市については人口が増えております。私のところで分譲なんかをする開発も都市計画課で窓口になっていますので双葉地区の響ヶ丘の甲府韮崎線の北側がだいぶ分譲が今出ていまして分譲をするとすぐに売ってしまうというようなことで若い方がだいぶそういう分譲地に入ってきますんで、これからも双葉地区についてはだいぶ若い方が入ってくるのかななんて推定されるんですけども、それに伴って商工業の方もですね、新しい小規模というよりも、中小になると思うんですけどもいくつか店もでてくると思います。そういうなかで地元の小規模の工業の方たちが元気を出してもらうのは非常に大事ですから、行政としてできることは限られるとは思いますが、限られた予算の中でみなさんの意見をいただく中で効率的なサポート役ですね、これは行政が頭に立ってすすめてもなかなか長続きはしませんので、やはり地元の皆さま方が先に立っていただいて行政の方がサポートとしてできることをやっていきたいなということで今後この会議をまたみなさんの意見を聞いていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

《委員長》

一通り、みなさんのご意見をおうかがいしたところでございます。時間もまあ経ってはきたようですけれども、どうしても今日来たから私はこれを聞いて帰りたいというような人がいたら、どうでしょうか。これだけは今日はみなさんに聞いてもらいたい、もしくは市の方に聞いてもらいたい、ご意見がありましたら最後にお伺いしたいと思っております。だいたい、言いつくしたでしょうかね。今回はこれで意見交換会を終了したいっていうふうに思っております。

(3) その他

《委員長》

その他、3番目でございますけれども、何かありましたらご意見を聞きたいところでございますが、事務局の方でありますか。

《事務局》

来年度につきましては、アンケート調査をこちらの方でも実施したいと思っています。また、講師をお招きし講演会等開催できたらと考えています。そのような中で皆様のご意見をいただきながら検討してまいりたいと思っておりますので、ご協力のほうをお願いしたいと思います。以上です。

《委員長》

これで議事は終了したいと思います。どうも有難うございました。

[議事終了]

4 閉 会

《事務局》

委員長ありがとうございました。閉会に入らせていただきます。本日は貴重なお時間をいただきまして誠にありがとうございました。以上をもちまして会議を終了いたします。

終了時間:午後3時